

## 今年こそ、CMSCがさらに飛躍する年に!

明けまして、おめでとうございます。  
昨年は一月早々「パリィダカール・ラリー」で篠塚建次郎選手が、日本人として初めて総合3位に入賞するという話題で明けました。秋には国内でF-1の開催などもあり、モータースポーツに対する一般の関心も、一段と高まった年でした。

わがCMSCも、各支部の主催、あるいは協賛する大会も増え、会員も増員傾向にあったようです。さらに、これまで活動の場としてきたラリー、ダートトライアルからミラージュカップ東北シリーズに参戦し、サーキットにも進出した年でもありました。

さて今年、会員のみならずかかねてから要望されていた戦闘力の高い新戦力、ギャランVR-4が登場しました。すでに多くの会員



の方が試乗され、その力を確認なさっていることと思います。今年の全日本ラリー選手権シリーズのライバルは、ブルーバードでもセリカでもない、このギャランVR-4という選手の方もいます。

新年早々からCMSC青森、CMSC帯広の主催する「ウインターラリー」「氷上トライアル」があります。他にも各支部から、八八年活動計画が本部に寄せられています。それらはモータースポーツがますます盛んになる前兆をありありと感じさせます。

今年も一年、元気にモータースポーツを楽しんでいただきたいと思います。

一九八八年一月

CMSC会長

外川一雄



写真はテストラン中のギャランVR-4。第27回東京モーターショーに出展されたグループA仕様車。

## 競技終了後も日暮まで ダートクロスで楽しく過した1日

CMSC帯広ダートトライアルは朝夕の冷え込みがめっきり厳しくなった11月1日に行なわれました。早朝はコース全体が霜で真っ白という状態でしたが、幸い快晴でしたので競技途中からは上着を脱ぎなくなるほどの暖かさ。午後からは、コースの土煙が気になるくらいでした。

三菱車の参加は3台。BIIクラスに「北海道チャンピオンシリーズ」にも参加しているラリースト、館内コルディアがエントリーして話題に

なりました。トライアルには今回が初参加で、パイロン区間にてこぎりながらも三菱賞の第1位になったのはさすがです。

FRクラスに参加の富樫ランサーは、1トライ目に得意のパイロンを3本も蹴とばしてしまいましたが2トライ目にスラロームで挽回し、逆転のクラス優勝を果たし、三菱賞の2位でした。3位には福本ランサーが入りました。

(レポート=青沼達也)



## テレビの取材もあって 大いに盛り上がった大会でした

山形ダートトライアルフェスティバルは、県内の各クラブが協力するという初めての試みでした。大会はCMSC山形の宴会部長、蜂谷選手の前夜祭の活躍で幕を明けました。あいにく台風19号の影響が残る天候でしたが、福島、秋田、新潟からもエントリーがあり、120台が参加。地元テレビ局の取材もあって、雰囲気

もぐっと盛り上がりました。

CMSC山形からはランサー、コルディアの参加が12台。ラリー、ダートラに挑戦しCMSCチャレンジカップのポイントに大きく貢献している菅野茂選手がコルディア4WDでBIIクラスに出場、2位に入賞し三菱賞の1位になりました。同じくBIIクラスの小野選手と菅原選手は

千分の1秒まで同タイムのため、じゃんけんで小野選手が4位、三菱賞2位。菅原選手が5位、三菱賞3位に。レディースクラス2位にはCMC山形の古沢選手が入賞しました。

閉会式には西川町長の挨拶もあって、主催者、エントラント、ギャラリートとも大満足な1日でした。これで山形県の'87ダート競技は全部終了。もうすぐ月山も雪に覆われますが、月山の自然水で作る水割りは最高です。いちどぜひ味見にお越しください。(レポート=斎藤真一)



## 結果度外視で楽しんだサーキット走行

今年4月から始められたミラージュカップ東北シリーズ全4戦も、最終戦を迎えた。全4戦に参加した選手はのべ37名で参加車両は27台であった。下表のようにCMSCの東北、関東地区の支部からは合計8台、15名の選手がエントリーした。シリーズを通して一人の選手で戦ったのは、埼玉の蒲原芽里選手、山形の小川日出生選手、本部の加藤元章選手。岩手、仙台、福島、栃木、群馬の各クラブは2人、あるいは3人が交代で出場したようだ。これは、サーキット走行を出るだけ多くのクラブ員が体験し、また楽しもうという趣旨によるもので、結果は度外視ということ。

シリーズ上位を占めたのは、1昨年からフレッシュマンシリーズにエントリーしていた面々で、1位・鈴木淳選手、2位・斎藤敏浩選手、3位・伊藤勝一選手であった。われらがCMSCで一番速かったのは埼玉の蒲原芽里選手で、シリーズ7位。サーキット走行に一日の長があ



るところを見せた。続いて山形の小川日出生選手で、第2戦の子選不通過、第3戦のリタイヤがなければ惜まれるところ。トラブルにも負けず健闘した本部の加藤元章選手が1位、第1戦だけのポイントで14位になった岩手の安田皇三選手が、かつてサーキットを暴れまくった片鱗を見せてくれた。



No.	ドライバー	CMSC	ポイント
84	蒲原 芽里	埼玉	20
81	小川日出生	山形	14
90	加藤 元章	本部	13
88	栗田 律男	岩手	5
87	佐藤 孝寿	仙台	2
85	上泉 晃祥	福島	1
85	柴田 和明	福島	1
83	松本 久雄	栃木	1
83	川口 法行	栃木	1
86	飯塚 恒守	群馬	1
86	佐藤 保	群馬	1
87	佐藤 政一	仙台	1
86	荒井 信介	群馬	1
88	入野 孝男	岩手	1
83	町田 俊英	栃木	1

注 このポイントはCMSCのチャンピオンシップとは違います



## CMSC青森

'87全日本ラリー選手権シリーズ全8戦に大西康弘選手コルディア4WDでフルエントリーCクラス・シリーズ総合6位に!

## VR-4で今年も全日本戦にフルエントリーします。

11月14~15日に行なわれた「ハイランドマスターズ」をもって、'87全日本ラリー選手権シリーズは終了。CMSC青森の大西選手はコルディア4WDでシリーズ全8戦に参加、常に上位を争う健闘を見せた。大西選手の全8戦のポイントは右表の通りで、ギャランVR-4で戦う今年は昨年以上の活躍が期待できそう。「どういう数字が出るかは結果次第ですが、今シーズンは実力をお見せできそうです」と静かな闘志を語っていた。

第1戦・DCCS	4位	35
第2戦・関西	9位	7
第3戦・広島	7位	13
第4戦・東北	3位	50
第5戦・ミカサ	8位	10
第6戦・九州	13位	—
第7戦・モンレー	5位	25
第8戦・ハイランド	リタイア	—
合計		(※有効)133

※有効ポイントは8戦中上位の方から5戦のポイントをとる。



# 1位山形、2位青森、3位島根

'87CMSCチャレンジカップ1~11月集計

●クラブ別獲得ポイント

	1~5	6~8	9~11	12	合計
帯広	62	40	22		124
札幌	0	49	16		65
青森	60	104	58		222
岩手	32	0	32		64
山形	125	100	71		296
仙台	2	0	4		6
福島	38	22	0		60
栃木	26	74	9		109
群馬	11	3	10		24
埼玉	10	0	51		61
岐阜	9	34	1		44
島根	71	68	60		199
香川	41	0	0		41

●ラリー部門 ドライバー

大西 康弘	青森	86
館山 正嗣	青森	64
福士 文秀	青森	64
小川日出生	山形	56
千田 俊二	札幌	50
高橋 光男	福島	42
武蔵 秀雄	岩手	36
馬場 宏治	岩手	18
菅野 茂	山形	12
菅野 茂	福島	10

●ラリー部門 ナビゲーター

永沢 裕之	青森	104
田口 雅生	本部	72
吉田 東悦	福島	42
葛西 一省	青森	24
村山 豊	山形	12
佐藤 忠宣	福島	10
石井 隆夫	青森	6

●スラローム部門

国谷 益雄	島根	79
小野 馨	山形	63
富樫 昭彦	帯広	56
井馬 隆之	帯広	50
菅野 茂	山形	49
杉坂 啓一	島根	45
白井 修	香川	41
川俣 豊一	栃木	41
蜂谷 重則	山形	35
菅原 治樹	山形	33

●レース部門

蒲原 芽里	埼玉	42
小川日出生	山形	32
加藤 元章	本部	26
栗田 律雄	岩手	10
松本 久雄	栃木	3

●ポイントのつけ方

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	10位以下	リタイア
ポイント A	40	30	24	20	16	12	10	8	6	4	2	0
ポイント B	20	15	12	10	8	6	5	4	3	2	1	0

A=ラリー………全日本選手権、JMRC地区最上級シリーズ、スラローム…全日本スピード行事選手権、地方スピード行事選手権、JMSシリーズ  
レース………全日本選手権、地方選手権、ミラージュカップ  
B=それ以外の競技会  
ミラージュには予選通過も含む

CMSCチャレンジカップの1~11月の集計がまとまったのでご報告。クラブ別ポイント、部門別ポイントは上記の表の通りで、クラブ別では山形がだんぜん第1位。部門別に見ると、山形には獲得ポイ

ントランキングでトップをとっている選手はいないので、チーム全員が多く競技に参加して得たポイントの積み重ねであろう。2位の青森は大西、永沢、館山、福士選手など、各部門のトップを獲得してい

る選手の活躍が大きい。これを編集している時点で、まだプログラムを残している支部があり、最終結果は次号で発表する予定である。

## 飛び入りもあってギャランVR-4試乗会盛況

待望の新戦力ギャランVR-4の試乗会が行なわれた。CMSC会員のための催しだったが、噂を聞きつけて専門誌の記者の参加もあった。試乗は会場のスポーツランド千葉のコースを、1人が2周という限られたものだったが、戦闘力の概要は確認できたようだ。

CMSC山形の小川日出生さんは「全長が長い割りに、トルクフルなエンジンだから走りやすい。ボディ剛性も高そうで特に補強の必要はないようだ。10台を仕入れる予定だが、すぐなくなるのでは」とのこと。「操縦性は高く取り回しが楽だった。路面がかなりぬかるんでいたのははっきりとは断言できないが、アンダーがてやすいFR的な味付けだと感じた。フロントへビイな他社の4WDと比べるとバランスはいいと思う」というのはCMSC島根の杉坂啓一さんの試乗後の感想。「とにかくパワーに圧倒された。それと曲がらないクルマだと思った。というのもこれまでずっとFRに乗っていた感覚が身に付いているからで、テールをすつと流せない。4WDのドライビングに慣れるまで、少し時間がかかるかもしれない。とにかく練習を重ねて慣れなければ」と、CMSC岐阜の浅野博孝さん。

昨年、全日本戦で活躍したCMSC青森の大西康弘さんは、雑誌「オートスポーツ」の企画でスポーツランド菅生で試乗。その感想は1月15日号の同誌に詳しいが、「どこに出しても恥かしくないマシンですね。特にエンジンは3000~7000回転まで太いトルクで、ラリー向き。これまで苦労していたハイスピード・ステージでの不利がなくなりますから今シーズンは楽になりそう。まだチーム体制は決まっていますが、出来ればJAF戦だけでなくこのマシンで海外にも遠征してみたいものです。今年のライバルはこのVR-4勢になりそう」と、さっそく自分のための1台を確保したようだ。



CMSC会員だけの試乗会の予定だったが、噂を聞いて飛び入りした人も多かった。